

様式3 平成30年度 学校関係者評価書

学校名	宇陀市立菟田野中学校
実施日	平成31年3月8日

大項目	中項目	達成状況・取組状況について	取組の適切さについて	改善方策について
I 教育活動に関するもの	(1)基礎学力の定着と向上 (2)自主的・主体的に行動できる生徒の育成 (3)人権意識の育成 (4)生徒指導 (5)特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・町で会ったとき、中学生が挨拶をしてくれることが多くなり、とても嬉しい。 ・家庭学習の時間が伸びたことは、目に見える変化として大変大きな成果である。 ・生徒が、自分でやる機会が多く与えられており、楽しさや充実につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上の取組も、このまま継続していくことで良い伝統となることを願う。 ・相談できる先生の割合が高いのは、とてもいい状態であると感じる。 ・生徒による活動が、随所であり、それがとても良い。 ・中国との交流もよかった。英語を話せずとも臆さない積極性をこれからも育ててほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「非認知能力」とても良い。測る方法があれば良い。 ・「授業がわからない」生徒がまだいるので、これからも、わかる、おもしろい授業の研究を進めてほしい。 ・いじめ問題は普段の生活での関係が大切であり、その点をこれからはっきりと意識する。 ・子の良さを保護者、地域皆で認めてやれるよう、学級通信等でもっと、良さを伝えてほしい。
II 学校経営に関するもの	(1)組織運営 (2)研究研修 (3)保健管理 (4)保護者・地域との連携 (5)教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修を通じてトータルで子どもを育てる視点を大切にすることは意義が大きい。 ・小中で「自主学習ノート」について合同研修できたことは、共通のテーマとしてとても良かった。 ・吹奏楽部を中心に地域との交流は、大変良く、町が元気をもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3～4人での学習班で進める授業は、人数として効果的だ。 ・文章とする「振り返り」は大切なことだと思う。 ・学習は積み重ねが大切であり、小学校からのことが後々に影響が大きくなる。そのことから、小から一貫して行うという小中合同研修の意義は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自主学習ノート」以外にも、宿題などの与え方についても考えることで、より、自分で自分の課題を克服していく力になる。 ・「学び合い」の中で、「教える」ことにもスポットを当て、教え方名人等、意識させていくことも大切だろう。 ・「振り返り」の場合、生徒の自己評価力を育てるのは難しく、小中合同研修を通じて研修し、段階的に進めてほしい。

【その他学校に対する意見】

特になし

様式 1 平成30年度 宇陀市立 菟田野中学校 学校自己評価書

教育目標		学ぶ意欲をもち、人のつながりを大切に、人を思い、協働する力を育てる～『非認知能力』を伸ばす～					
運営方針		教職員を適材適所に配置し、組織的に学校運営・学級経営を行うとともに、保護者や地域とともに学校を活性化させる。					
前年度からの課題		・基礎学力の徹底 ・学ぶ意欲の向上	・家庭学習	本年度重点目標	○ 学力向上（客観的データに基づく取組） ○ 学級集団づくり（互いに高め合える集団・一人ひとりが生き活きと活動できる集団） ○ 自分たちで誇れる学校（達成感のある活動） ○ 保護者や地域に信頼される学校		
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題・改善方策
I 教育活動に関するもの	(1) 基礎学力の定着と向上	① 学習指導計画	指導計画（シラバス）の作成と実施状況	・家庭学習の習慣化のために「自主学習ノート」、わかりやすい授業のために「学び合い学習」に学校全体で取り組んだ。 ・研究授業や小中合同研修などで全職員で指導法などについて協議を重ねた。	C	・「シラバスを活用」保護者肯定的35% ・「わかりやすい授業」生徒肯定的90% ・「学力向上に役立ったこと」で生徒が選択したもの（自主学習ノート）51%学び合い学習27%映像機器使用21% ・「適切に評価」肯定的生徒82%保護者86% ・ふだんの家庭学習の時間、毎日30分もしていない割合が大きく減少（4月と1月比較） 1年34.4%→0% 2年48.1%→30.8% 3年34.5%→10.3%	・「シラバス」の内容の検討や使用方法をより広く伝える。 ・よりわかりやすい授業研究を進める。 ・「自主学習ノート」の定着で家庭学習の習慣はついてきたが、より「深い学び」につなげるための指導方法を研究していく。 ・継続することの大切さを伝え、工夫をしながら引き続き取り組んでいく。
		② 指導方法の工夫改善	学力向上に向けた指導の工夫（学び合い等）とわかりやすい授業実践		A		
		③ 評価	適切な評価		B		
		④ 家庭学習の指導	家庭学習の習慣化のための指導の工夫と実践		A		
	(2) 自主的・主体的に行動できる生徒の育成	① 挨拶と掃除の定着	挨拶の習慣化と清掃活動の定着	・生徒会の挨拶運動や呼びかけ。 ・七夕集会・体育大会で、生徒実行委員による企画、運営を行い。合唱コンクールでも各クラス意欲的に取り組んだ。 ・各学年、活発な体験学習を行う。 1年：福祉体験学習・地域から学ぶ学習 2年：ふれあい体験・職場体験学習 3年：修学旅行での平和学習と進路に向けてなど。 ・本校の部活動の方針を作成した。	A	・「自分から挨拶をしている」肯定的生徒88%保護者79% ・「掃除を熱心に行っている」肯定的生徒98% ・「生徒会・福祉委員会で積極的」肯定的生徒87% ・「学級の一人として協力した」肯定的生徒92% ・「学校行事が充実」肯定的生徒98% ・「部活動に意欲」肯定的生徒76%	・挨拶と掃除を大切にすることは、今後も重視していく。 ・生徒会の活動も、生徒の主体性と個性を活かす活動となるよう進めていく。 ・学校行事を絶えず見直ししながら、ただ続けているだけではなく、生徒の実態に即した企画を考えていく。 ・部活動は、教育界全体の問題であり、大きな変革の時代に入って今までのようにはいかないことがあることを認識し、新しい在り方を模索していく。
		② 学級・学年指導の充実	学級活動・道徳・総合的な学習の時間の指導の工夫と実践		B		
		③ 生徒会活動の活性化	生徒が主体となって意欲的に取り組む		B		
		④ 部活動の活性化	安全に、生徒が意欲的に取り組む		B		
	(3) 人権意識の育成	① 人権教育指導計画	確かな人権意識を身につけさせる指導計画	・生き方学習会での講演。2回 ・生徒集会での発表、話し合い。3回 ・七夕集会での地域の方との交流。 ・体育大会が延期になったため、地域の方との交流ができなかった。など。	A	・「人権に関する行事が充実」肯定的生徒96% ・「いじめや暴力にあう心配が少ない」肯定的生徒95% ・「一人ひとりを大切に教育」肯定的保護者78%	・人権を大切に教育は本校の伝統である。その強みを今後も活かしながら、時代に即した教材研究を進める。 ・地域の方との交流方法を、今後も考えていく。
		② 指導方法の工夫改善	生徒の実態にあった題材と、工夫ある授業実践		B		
	(4) 生徒指導	① 組織的な生徒指導	組織的な取組で規範意識を高める指導を行う	・学年だけでなく学校全体での、情報の共有を大切にした生徒の指導を行うことを常に大事にした。 ・スクールカウンセラーによる教員の研修を行う。	B	・「服装、交通ルールを守っている」肯定的生徒95% ・「心配事を先生に話せる」肯定的生徒72%保護者82% ・「PTA活動に積極的参加」肯定的保護者50%	・今後も様々な場面を通して、ルールを守る社会性を育てると共に、自律心を持たせる指導を進めていく。 ・学校の情報を積極的に伝え、保護者や地域との信頼関係の構築に努める。 ・PTA活動の活性化を考える。
		② 教育相談・生徒理解	教育相談の充実とスクールカウンセラーの活用		B		
		③ 家庭との連携	家庭との連絡を密にし、連携を深める		B		
		④ 関係機関との連携	関係機関との連絡を密にし、連携を深める		B		
	(5) 特別支援教育	① 組織的な特別支援教育	生徒の特性を理解し組織的に特別支援教育を進める	・特別支援教育個別の指導計画を作成した。 ・特別支援教育部会を定期的に行い、教員の始動の共通理解を進めた。 ・授業のユニバーサルデザイン化の取組を続けている。 ・特別支援学級保護者会を年2回行う。 ・職員特別支援教育研修を2回、県立二階堂養護学校、明日香養護学校教員を招き行う。 ・市特別支援教育指導員の来校、年5回。	B	・全教員で共通理解の場を定期的に設け、個別の指導計画を基に指導を行った。 ・授業のユニバーサルデザイン化は、まだまだ考えるべき点、徹底しなければならない点などがある。 ・特別支援教育部会を年間通じて、定期的に行うことができた。 ・年2回の特別支援学級保護者会で、全職員が参加し、情報共有や交流を進めることができた。	・今年度特別支援学級保護者会の回数は、保護者の状況を考えながら、2回となった。今後も、保護者との連携を密にして進める。 ・授業のユニバーサル化の視点を今後も大切にし、検討見直しを定期的に行う。 ・関係機関との連携を密にし、専門的な意見をききながら進める。
		② 個別の指導計画	個別の指導計画を基にした、指導の充実		B		
		③ 家庭との連携	家庭との連絡を密にし、連携を深める		B		
		④ 関係機関との連携	関係機関との連絡を密にし、連携を深める		B		

様式2 平成30年度 学校自己評価項目（学校経営）

学校名【 菟田野中学校 】

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題・改善方策
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	① 学校経営目標	学校経営目標の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育のグランドデザインを作成し、学校便りや学校ホームページ等で周知する。 ・「菟田野中学校部活動の方針」を作成し2学期よりスタートさせた。 ・教員の経験や能力を考慮した分掌配置を行う。 ・各校務分掌の会議を、定期的実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標をグランドデザインとして周知し、具体的な目標を掲げ取り組んだ。 ・部活のない日を設けたが、教員の勤務時間については、働き方改革の視点からも、まだまだ改善が必要。 ・各分掌での会議も定期的に行われ、情報共有等、組織的な運営が行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の周知や広報を更に丁寧に行う。 ・働き方改革の視点を考えた、業務の効率化を考える。 ・各分掌の定期的な総括を、きちんと次に活かせる体制作りを行う。
		② 校務分掌等の連携	校務分掌の適正化と連携を密に行う		B		
		③ 会議の運営	定期的な開催と活性化		B		
	(2) 研究・研修	① 研修の組織・計画・実施	組織的な運営と課題の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を年に、教科研究3回（県指導主事を招聘）、人権教育3回実施、全教員で研修した。 ・計画的に、かつ必要に応じて、職員研修を実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業や研修で、小グループでの意見交換や発表等、形を工夫することで教員の意見交流が進んだ。 ・特別支援教育やカウンセリング、人権についてなどの講師を招いての研修を行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「わかる授業」作りを進める研修、研究を進めていく。
		② 校内研修	実態に即したテーマと実施の工夫		A		
		③ 授業研究	活発な交流と成果を実践につなげる		B		
	(3) 保健管理	① 学校保健安全計画	適切な学校保健安全計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全計画に従い、共通確認の下進める。 ・熱中症対応指針を作り、学校で共通確認を行い、WBGTの測定を行う。 ・保健便りの発行。 ・学校カウンセラー来校、月1回。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対応をその都度迅速に行い、感染症の予防に努めた。 ・熱中症対策では、熱中症対応マニュアルを作ったの周知を行い、学校全体で対応することができた。 ・学校カウンセラーによる職員研修も実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策として、細かい保健指導を今後も徹底していく。 ・生徒観察を怠らず、教員の情報共有を大切にすること。 ・学校カウンセラーの有効な活用。
		② 保健指導	保健指導の充実		B		
		③ 健康相談体制の整備	教育相談・学校カウンセラーの活用		B		
	(4) 保護者・地域との連携	① 学校情報の発信	学校ホームページ・学校便り・学年便り等の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの更新を毎月行い、行事写真・学校便り・学校からのお知らせ等の広報を行った。 ・学校便り、学年学級便りの発行。 ・オープンスクールの実施。当日は各学年の時間や合唱コンクールを行った。 ・「ひらら」でのボランティア清掃。 ・吹奏楽部の各地域行事での演奏。 ・小中全教員による小中合同研修を年2回行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校、学年便りや学校ホームページで様子がわかる」肯定的保護者83% ・「配信メールが役に立っている」肯定的保護者87% ・今年度初めて、小中合同で研修を行い、9年間で目指す児童生徒像などについて、小中の全教員で話し合うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の活動、取組の目指すもの等、より丁寧な広報に努める。 ・義務教育9年間を通じた教育を考え、小中合同での研修を深めていく。
		② 学校(授業)公開	授業参観・オープンスクールの実施		B		
		③ 家庭・地域との連携	地域活動への参加・地域住民の参加		B		
		④ 校種間連携	小中の連携を進める		B		
	(5) 教育環境の整備	① 施設設備の有効活用	学校施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館、格技室の地域への開放。 ・教材、教具を適正に管理し、計画的に使用。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の開放を積極的に行い、有効に利用された。 ・教材、教具の管理は適正に行い、活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な活用に努める。
		② 教材教具の整備	教材・教具の整備、活用状況		B		